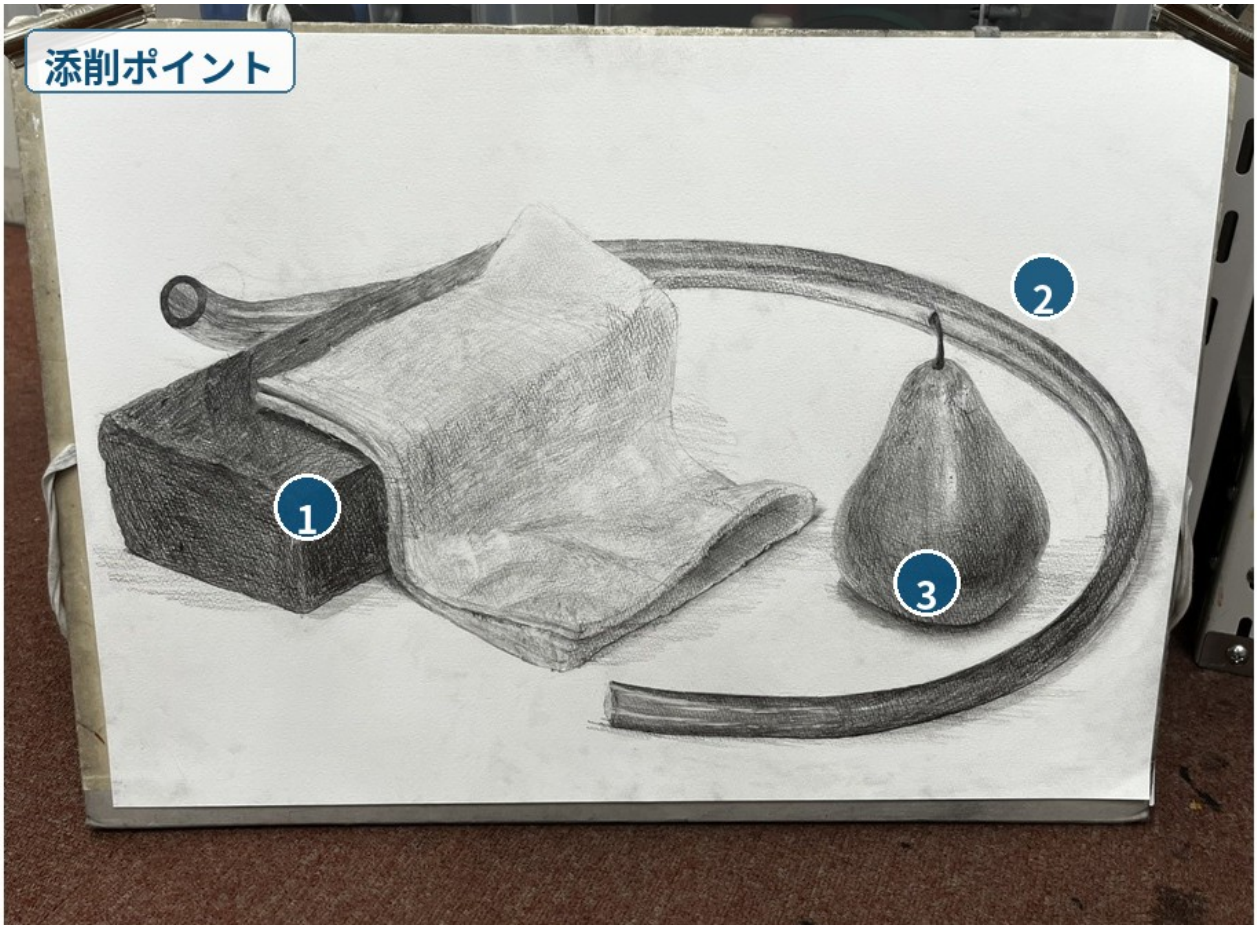
鉛筆静物デッサン | 添削・講評例

作品全体を見たうえで、直すべき点を３つに絞り、次の制作へつながる形で講評します。



講師の総評 材質差や量感はよく観察できています。次の段階では、部分を細かく描く前に「形の骨格」と「大きな明暗」を先に確定し、形態 → 空間 → 材質の順に整理すると完成度が一段上がります。

今回の重点

① 形態・構成	箱の角度と布の重なりは読めています。一方、箱の上面・側面・前面のパースが部分ごとに少し揺れています。細部を描く前に、頂点・稜線・奥行き方向を一度つなげて確認すると、布の厚みもより自然に見えてきます。
② 曲線・奥行き	曲がった管が画面を大きくまとめています。管の太さが手前と奥で不均一になりやすいため、輪郭から描くのではなく、まず中心軸を取り、その左右に同じ幅を意識して輪郭を置くと安定します。
③ 明暗・接地	洋梨の立体感はよく出ています。さらに床面との接点を強くするため、接地部の最暗部、落ち影、中間調の順序を整理しましょう。影をただ濃くするのではなく、光源に沿って形が床へつながるように描くことが重要です。

次の制作で行うこと

01 最初の 15 分	02 明暗の設計	03 完成前確認
外接矩形・中心軸・主要な頂点を取り、モチーフ同士の位置を先に固定する。	細部に入る前に、明部・中間調・暗部・落ち影の４段階で大きく整理する。	輪郭だけでなく、接地・重なり・材質差が画面全体でつながっているか確認する。

※添削内容は作品・志望専攻・制作段階に応じて変わります。掲載用サンプルのため氏名等は表示していません。